



品質管理と省エネを両立する圧力露点センサ「LDH313」



圧縮空気の“見えないリスク”を可視化

ifm efector株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 岩室 一志）は、圧縮空気および非腐食性ガス中の水分状態を高精度に監視する圧力露点センサ「LDH313」を2026年8月に発売しました。

近年、製造業ではエネルギー価格の上昇や品質要求の高度化に加え、人手不足による保全業務の効率化が重要な経営課題となっています。工場内で広く使用される圧縮空気は、生産設備を支える重要なユーティリティである一方、その品質は目に見えにくく、水分の増加による設備腐食や空気圧機器の故障、さらには製品品質への影響を招くリスクを抱えています。こうしたリスクを回避するため、多くの現場ではエアドライヤを余裕を持って運転しています。しかし、必要以上の乾燥はエネルギー消費の増加につながり、電力コスト上昇の一因となります。また、定期点検やスポット測定だけでは、ドライヤ性能の低下や異常の兆候を見逃してしまうケースも少なくありません。LDH313は、圧縮空気中の圧力露点温度を連続的に測定し、これまで見えにくかった圧縮空気の状態をリアルタイムで可視化します。常時監視により、ドライヤの性能低下や水分混入の兆候を早期に把握できるため、設備停止や品質トラブルが発生する前の対応を支援します。また、実際の空気品質に基づいた運転管理が可能になり、過剰乾燥を抑えることで省エネルギー化にも貢献します。さらに、IO-Linkに対応しているため、露点や温度データを上位システムへ容易に連携できます。単なる測定器としてではなく、設備の状態監視や予兆保全、さらには工場全体のエネルギー最適化を支えるデータソースとして活用できる点が大きな特長です。食品・飲料、製薬、自動車、半導体をはじめ、圧縮空気の品質が重要となる製造現場において、LDH313は品質管理の強化、設備停止リスクの低減、省エネルギー化を実現するための有効な監視ソリューションです。圧縮空気の状態を見える化することで、安定生産と持続可能なものづくりを支えます。

◆主な特長◆

- ・ -20℃までの測定範囲で露点を高精度測定
- ・ 堅牢設計で過酷な産業環境に最適（IP67対応）
- ・ 取付けと立ち上げが簡単なコンパクト設計
- ・ IO-Link対応で状態監視・予兆保全をサポート
- ・ 圧縮空気の品質を連続監視し、設備トラブルを未然に防止

◆製品名・価格◆

- ・ 製品名：IO-Link対応圧力露点センサ「LDH313」
- ・ 標準価格：105,100円（税別）
- ・ 販売目標：年間1,000個

* 本製品の詳細は、下記URLよりご覧いただけます（LDH313）

https://bit.ly/LDH313_PL_202607

ifm efector株式会社：会社概要

弊社は1969年にドイツで誕生以来"ifm-Close to you"を企業理念とし、センサのスペシャリストとしてお客様に寄り添っています。今日では従業員8000名を超える大企業に成長し、幅広いセンサのラインナップに加え、IoTのカギとなるIO-Linkの先駆者としても世界的に広く認知されるメーカーとなり、多くのお客様にソリューションを提供させて頂いております。日本では、長い間エフエクター株式会社として活動しておりましたが、2016年にifm efector株式会社に社名変更し、より良い製品、サービスの提供に努めています。

〒105-7104 東京都港区東新橋1-5-2汐留シティセンター4F Website:<https://www.ifm.com/jp>

本リリースに関するお問い合わせ先 / マーケティング部（會田庸子：yoko.aida@ifm.com）

製品に関するお問い合わせ先 / 営業部：technical.jp@ifm.com